

大分県姫島村大海地区における集落構成 — 集落構成・生活空間特性と季節風・生業の関係 その2 —

正会員○林孝茂*1 同 姫野由香*2 同 牛苗*3
同 安藤万葉*1 同 西悠太*1 準会員 濱田菜波*4

7都市計画—6 景観と都市デザイン
集落構成 生活空間特性

1 研究の背景と目的

地域景観は、各地域特有の集落構成や生活空間が存在することで、独自の景観となっている。特に離島地域は、海に囲まれた地理的特性により、外部の影響を受けにくい。そのため、離島における景観は、自然環境や人々の生業・生活、文化などの地域特性が存在する。

しかし、過疎化の進行や従事者の高齢化、そして後継者不足によって生業・生活の継続が困難となり、過去から現在へ継承されてきた地域特性を失いつつある。

一方、2005年に文化財保護法の改正により、文化的景観^{注1)}が定義された。また、特に重要なものは、重要文化的景観として選定され、国の支援のもと保全活動が行われている。このように、各地域の文化的価値を多角的視点から評価することで、地域景観を継承するために必要な要件を明らかにし、地域で保全することが大切である。

つまり、集落構成や風土と人々の生業・生活の関係を理解し、その保全に努めることは、重要である。

前稿その1では、漁業を中心に行っている西浦地区を対象に、集落構成と人々の生業・生活との関係を明らかにした。

そこで本稿その2では、漁業集落である姫島の中で、他の地区に比べて、農業に重点を置いている²⁾とされる大海地区を対象に、集落構成と人々の生業・生活との関係を明らかにする。

2 研究の方法

2-1 研究の方法

大分県姫島村^{おおむら}大海地区を対象に、集落構成図や特徴的な家屋の平面図を用いて、当該地区の集落構成・生活空間特性と生業との関係を明らかにする。

2-2 研究対象地

対象地である大海地区は、矢筈岳の山裾をとりまくように流れる大海川の段丘面に展開する集落である

(図1)。また、1960年代まで、畑は、家屋周辺だけでなく、矢筈岳の八合目まで分布するほど広がった。そのため、漁業を生業の中心とする姫島の中で、他の地区に比べ、農業に重点を置いた半農半漁で生計を立てていた。

また、その1で述べたように、大海地区では冬の季節風に、北西の強い風である「アナジ」の影響を他の地区に比べて受けにくい(図2)。そのため、地区内に防風林や防風壁はない(図3-1)。



図1 1970年代の大海地区の風景



図2 姫島村の各集落と季節風との関係

3 集落構成と生業・生活の関係

3-1 集落構成と生業の関係

本章では、資料文献調査とヒアリング調査により、大海地区の集落構成と生業・生活の関係や変遷を示す(図3)。

【漁業】漁業関連施設は、「恵比須社」、「見張り小屋」、「漁具庫」が存在する。これらの施設は、海岸沿いに設けられていることがわかる(図3-1①③④⑤)。

1950年頃まで、漁師たちは、出漁前に「恵比須社」で参拝していたが、現在その習慣はなくなっている。また1990年代の幹線道路(図3-3①)の整備で、海岸を埋め立てた(図3-1⑥)ことにより、「恵比須社」は、現在の場所へ移動している(図3-1①②)。しかし、漁

The formation of Omi settlement in Himeshima village of Oita Prefecture

The relationship between the formation of settlement or living space and seasonal wind or occupations-

HAYASHI Takashige, HIMENO Yuka, NIU Miao, ANDO Mayo, NISHI Yuta, HAMADA Nanami

師が1年の豊漁を祈願するために「恵比須社」へ参拝する「乗り初め」は、現在も行われている。「見張り小屋」は、情報交換をする場として利用されており、悪天候時に、天候を確認しあう場所でもある。「見張り小屋」は、現在も建て替えられておらず、同じ場所に立地している(図3-1③)。「漁具庫」は、個人や共同で利用するものがある。共同の「漁具庫」は、海岸沿いに立地している(図3-1④)。また、個人の「漁具庫」は、海岸沿いに土地を所有する人は、海岸沿いに建設し(図3-1⑤)、土地を所有しない人は、家屋の敷地内に設けている。

これらのことから、漁業に関する重要な要素は、海岸沿いに多く存在し、海岸の埋め立てによる環境の変化後も、変わらず海岸沿いに建てられていることがわかる。また、「セド」と呼ばれる家屋と家屋の間のできる幅の狭い道が、海岸に向かって延びていることがわかる(図3-1⑦)。これは、漁師たちが家屋から最短で漁港へ行き、漁業の準備などをしやすくするために形成されたものである。

【農業】大海地区では、稲作が他の地区に比べて盛んに行われており、灌漑用水路(図3-1⑧)沿いに水田(図3-2①)が分布していた(図3-2)。水田は、1970年まで約20haと広範囲に存在していた。しかし、1970年以降は、自動車の普及に伴う、車道整備や農業従事者の高齢化や後継者不足により、水田が減少していった(図3-2,3-3)。

また、畑は1960年代まで、広く分布していた。その範囲は、家屋周辺だけでなく、矢筈岳の八合目まで分布するほど広がっていた。しかし、1990年以降は、水田と同様に畑が減少してきている。

また1970年代まで海岸沿いは砂浜であり、芋を干したり、各戸で飼育していた牛を運動させていた。しかし現在は、埋め立てられ、ゲートボール場などの公共施設が整備されている。

3-2 集落構成と生活の関係

大海地区の戸建て住宅は、集落に存在する建物の7割(120/167件)以上を占めていることがわかる(図3-1)。また、1990年代から2000年代にかけて商店は、1件から2件へ増加し、「大海酒店」は、現在も同じ場所に立地していることがわかる(図3-3,3-4)。

また、海岸線沿いの道路が1970年代から1990年代

の間に整備されている。この道路が整備される以前は、山裾側が大海地区へと繋がる陸路での入り口であった。しかし、この道路が整備されて以降、他の集落からのアクセスは、海岸線側へと変化した(図3-2,3-3)。

公民館は、1920年代まで、1世帯あたりの居住者が多く、自分の部屋がない若者が集う「若者宿」として機能していた。現在は、公民館としての機能を持つだけでなく、選挙や健康診断など幅広く利用されている。

また姫島には、昔から継承されている「船曳祭り」、「盆踊り」、「荒神祭り」という祭事がある。「船曳祭り」では、公民館で歌やおはやしの練習や朝と昼に撒く餅作りが行われている。「盆踊り」では、一週間前から公民館・盆坪で練習をし、当日は、公民館で準備して盆坪で披露する。大海地区のみで催される「荒神祭り」では、くじで座元を決め、6名の世話人とともに座元の家屋で甘酒を造る。祭事当日は、荒神社(図3-1⑨)で、干しかぶと甘酒を持って参拝し、祭事が終わると座元の家屋で、直会が開かれていたが、現在は、公民館で開催されている。

これらのことから、公民館は、祭事の準備から直会などにも利用されていることが多く、祭事において中心的な場所であると考えられる。また、公民館は1990年代まで、「見張り小屋」の近くにあったが、海岸の埋め立てにより、現在の場所へ移動した(図3-1⑩⑪)。公民館の他にゲートボール場や公園などの公共施設も、海岸の埋め立て地に建設された(図3-3,3-4)。

このことから、海岸沿いには、「漁具庫」や「見張り小屋」など、共同利用する漁業関連施設だけでなく、公民館、ゲートボール場などの公共施設が増えた。そのため、海岸沿いは、地区の住民にとって、より公共性の高い空間へと変化したことがわかった。

4 生活空間特性と季節風・生業の関係

大海地区では、西浦地区と違い北西からの強い風は受けにくい、台風による強い風の影響を大きく受ける。その対策として、母屋は丘陵地では斜面側、平地では北側に建て、母屋前面に納屋や隠居屋を設ける傾向がある。また空間特性として西浦地区では、各家屋の敷地内を通り抜けることができるなど、家屋が開放的に配置されているのに対して、大海地区の家屋は、塀や建物で四方に囲まれ、閉鎖的に配置されている傾向がある(図4)。これは、中庭(図4①)で漁

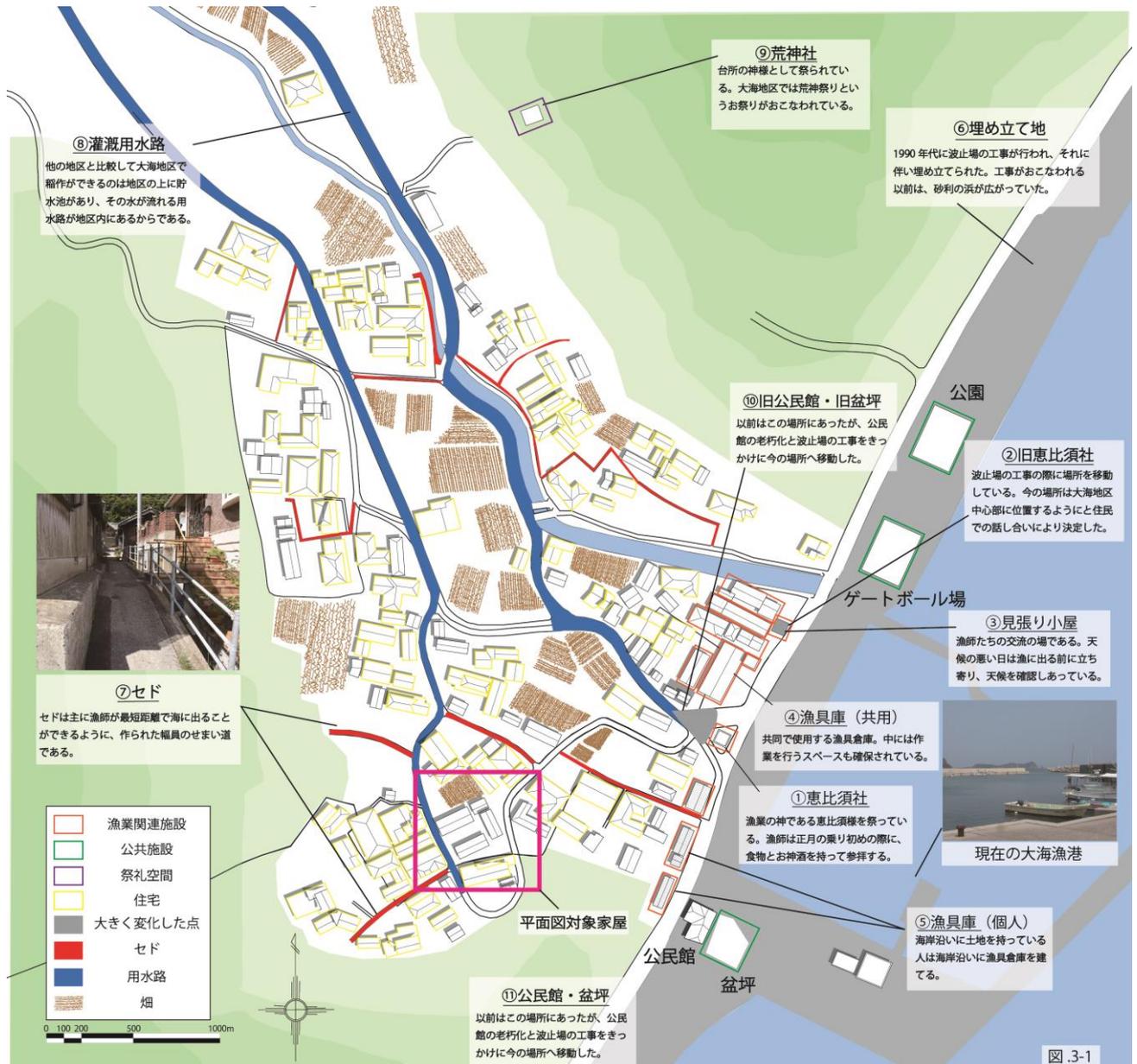


図.3-1



図3 大海地区の集落構成図

具の準備や芋^{注2)}を干すなどの作業が可能な静穏域を確保するためである。また、大海地区では、一本釣り^{注3)}という漁法を多く用いるため、家屋内の中庭で漁具の準備をする。また、中庭で芋を干し、収穫した芋は、芋うど^{注4)}や客間の下などに保管している。このように、中庭は、半農半漁の生業を象徴する空間であることがわかる。隠居屋の外側にある外窯(図4②)は、ひじき^{注5)}を加工するために使われている。また、親戚や友人を招く際に、大人数の食事を作る時にも利用され、姫島の家屋によく設けられている。外窯が、海側の方向に設置されているのは、漁業から戻った際などに使用しやすいためであると考えられる。

平面を作成した家屋の周辺は、西浦地区に比べ、家屋同士が密集しておらず、家屋の周辺には、畑が多く存在していた(図3-2)。このような配置が多いのは、「アナジ」の影響を受けにくいいため、家屋同士で密集する必要がないためであると考えられる。



図4 大海地区にある家屋の平面図

5 総括

本研究では、大海地区の集落構成・生活空間特性と生業・生活との関係を明らかにした。

集落構成と季節風の関係では、「アナジ」という北西の強風を受けにくいいため、防風林や防風壁はなく、家屋は点在しており、そのすきまに畑があることがわかった。また、集落構成と生業・生活の関係では、生業において、漁業に関する重要な要素は海岸沿いに多く存在し、海岸の埋め立てによる環境の変化後も、変わ

らず海岸沿いに建てられていることがわかった。農業では、大規模な範囲で稲作が行われていたが、1970年以降は、自動車の普及や農業従事者の後継者不足により、水田が減少し、1990年以降は畑が減少している。また、生活において、海岸沿いは、公民館、ゲートボール場などの公共施設が建設され、より公共性の高い空間へと変化した。また幹線道路ができたことにより、他の集落からのアクセスは、山裾側から海岸線側へと変化したことがわかった。生活空間特性と季節風の関係では、大海地区は、「アナジ」の影響を受けにくいいため、西浦地区に比べ、家屋同士が密集せず、点在している。また、中庭で漁具の準備や芋を干すなどの作業が可能な静穏域を確保するために、塀や建物で四方に囲まれ、閉鎖的に配置することで、風の影響を軽減していることがわかった。

また、生活空間特性と生活・生業の関係では、中庭に漁業や農業に関する作業を行う空間を設けており、中庭が生業において重要な空間であることがわかった。また、外窯は、漁業から戻った際などに使用しやすいように海側に設置していることがわかった。

最後に、その1とその2を通して、大海地区と西浦地区では、季節風によって家屋形態や集落構成が異なっていた。しかし、両地区とも、海岸沿いは、共同利用する漁業関連施設や公民館などの公共施設が集まっていることから公共性の高い重要な場所であることがわかった。また中庭が生業において重要な空間であることもわかった。

【補注】

- 注1) 文化的景観とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの1)」である
- 注2) 芋は、災害に強く瘠地でも育つため、姫島に最も適した作物である。
- 注3) 1本釣りは、1本の糸に数個の釣針をつけて釣る漁法。道具は糸と竿のみのため家屋内で漁業の準備ができる。
- 注4) 芋を収納する場所であり、本研究の対象家屋には、土間に芋うどが存在する。
- 注5) 姫島では、12月頃に多くのひじきが獲れ、各家屋庭で生計の足しにする。

【参考文献】

- 1) 文化財保護法第二条第1項第五号
- 2) 坂田泉, 月館敏栄「豊後姫島の漁業集落について」pp137-140 日本建築学会, 東北支部, 1977年2月
- 3) 山村宗一郎, 佐藤誠治, 小林祐司「集落構成の変遷にみるサスティナブルコミュニティの理想」大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程修士論文, 2011
- 4) 姫島村教育委員会「姫島村史」1986

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生
 *2 大分大学理工学部創生工学科 助教 博士(工学)
 *3 大分大学大学院工学研究科博士後期課程 大学院生
 *4 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

Graduate Student,Oita Univ.
 Research Associate,Dept. of Architecture, Faculty of Eng,Oita Univ., Dr.Eng
 Doctoral Course ,Oita Univ.
 Undergraduate Student,Oita Univ.